

「江戸東京漁業ゆかりの地」～佃島、日本橋、築地～ 東京都中央区

佃島は、現在の中央区佃1丁目と2丁目の一部、隅田川河口の干潟を埋立てて築いた島である。天正年間徳川家康が上京の際に摂津国西成郡佃村の漁民の奉仕を得たことから、家康関東入国の時彼らを招いて江戸に住居させ、漁業に従事させたのが佃島の始まりと伝える「江戸名所図会」があるが、歴史的証拠はない。ただ、彼らが摂津の漁民であったことは事実だろう。

佃島漁民は早くから江戸近辺の海・河にて漁猟の特権を与えられていたことに対し、毎年11月から3月までの期間、中川や江戸

川、後に隅田川上流域で漁獲した白魚を江戸城に献上することとしていた。また、享保初年幕府に助成地を願い出、深川に土地を与えられ、町屋建設も許された。ここを深川佃町とよび、海際の町なので「海」と俗称した。やがて岡場所のひとつともなり、この遊女を「あひる」と俗称した。

佃島へ渡るために渡船が設けられ、住吉神社(佃島の鎮守)の祭礼や有名な藤棚見物の際には頻繁に通ったのであろう。

佃島を題材に取り込んだ文芸は多い。落語の「佃祭」は、明和の佃渡船転覆事件を下地にしたものであり、安政5年(1858)に没した五世川柳こと水谷金蔵は佃島の人であった。錦絵の類にもしばしば登場し、広重の「名所江戸百景」には佃島住吉祭礼の雄大な幟が描かれている。毎年行われる盆踊りは、古典的な踊り方に加えて関東には珍しい「くどき歌」によって踊られる。盆踊りに限らず住民の間に古風な漁村習慣が保持されてきたものである。関東大震災の際、老幼婦女はすべて船で海上へ避難させた上で、壮年青年は一致結束防火に挺身し延焼から全島を救ったという美談も、その強固な共同体実践の成果かとも思われるのである。



住吉神社

みどころ



- 住吉神社：大阪の住吉神社の分霊を移したもので、佃から月島一帯の氏神となっている。毎年行われる例大祭のほか、3年に一度行われる大祭では、江戸三代ばやしの一つである佃ばやしにのって八角神輿が繰り出し、五反のぼりや獅子がしらの揉みあいにも全島中が沸き返る。
住吉神社 ☎03-3531-3500
- 佃島の盆踊り：東京都の無形文化財に指定されている念仏踊りは毎年7月13日から15日の3日間行われる。延宝8年(1680)、日本橋橋町から築地に本願寺が移った時、佃島の漁民が祖先の霊を祀るために網干場で踊った念仏踊りにはじまる全国でもめずらしいもので、佃ばやしとともに郷土の誇りとなっている。中央区観光協会 ☎03-3546-6525